

訪問看護ステーション 連絡協議会だより

第20号

発行年月 2010年9月
 発行所 岡山県訪問看護ステーション
 連絡協議会
 ☎700-0805 岡山市北区兵団4-39
 岡山県看護研修センター3階
 TEL086-238-6688・FAX086-238-6681
 http://okayama.houmonkango.net/
 E-mail okayama@space.ocn.ne.jp
 発行責任者 山谷 富美枝



会長就任
のご挨拶

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会
 会長 山谷 富美枝

平成22年7月から岡山県訪問看護ステーション連絡協議会会長に就任いたしました。岡山県看護協会会長を兼務しております。若林前会長が大切に育ててこられた岡山県訪問看護ステーション連絡協議会会長の任の重さを痛感しているところです。

4月の診療報酬の改定により、急性期医療を担う医療機関は、入院期間の短縮化を進めています。このことは、今まで以上に医療依存度の高い患者さんが在宅療養をせざるを得なくなるのではと危惧しています。

地理的条件や人員の状況等、訪問看護ステーションの抱えている課題は大きなものがあります。医療関係者を始め、行政側からの訪問看護に対する期待が大きいことも事実です。そして何より、訪問看護を受けた利用者・家族の方たちから、高い評価を受けているのです。なのに何故？訪問看護ステーションが増えていかないのか？

私たちが実践していることをどの様に周囲に伝えられるのか、どうすれば施設を越えて、職種を越えて真の連携が生まれていくのか、何が整えば人員確保ができていくのか等々、一緒に取り組んでまいりたいとの思いでいっぱいです。看護の仕事はすばらしい!!”ご支援・ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

退任のご挨拶

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会
 前会長 若林 敏子

会員の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

このたび、退任にあたり発行二十号という節目の協議会便りに退任のご挨拶をさせていただきます。心からお礼申し上げます。

さて、顧みますと、訪問看護のことは何も分らないまま、前会長、故高田都さんからお引き受けし、重責と戸惑いながらの日々でしたが、会員の皆様方に温かく支えていただき十年の長きに亘り務めることができました。そして私なりに訪問看護のあるべき姿を求めながら一生懸命努めて参りましたが、果たしてお役に立つことができましたか自問自答しています。

訪問看護が制度化して十七年が過ぎ、今後超高齢社会の到来とともに在宅療養者は増加し、訪問看護の推進充実と居宅医療推進には訪問看護は必須であります。生活を支え人生に寄り添う在宅ケアこそが訪問看護の真髄であり、看護の原点でもあります。訪問看護並びに連絡協議会のますますの発展を祈念し、皆様のご活躍とご健康をお祈りして退任のご挨拶といたします。

長い間大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

新設のステーション紹介

「稔りのために」 訪問看護ステーションあおえ
 管理者 杉岡美香

7月に開設1年を迎えました。設置法人は、医療法人天成会 小林内科診療所です。「人生における健康と幸福に意味を熟慮し、いのち・生活・そして人生の質を支え、地域社会に貢献する」という理念のもと、在宅を支えるサービスのひとつとして開設されました。規模はコンパクトですが、リハビリスタッフもおります。

私個人は、8年ぶりに訪問看護の現場に戻りましたが、やはり楽しく、「看護」のもつ力・意味を試され、考えさせられる場でもあります。

本人・家族がどう療養していきたいのか、それをどう支援していけばいいのかを、思い、チームで語り、考えていけるステーションでありたいと思います。

まだまだ実績のない中での未熟な活動ですが、諸先輩ステーションに一步でも近づけるよう頑張りたいと思います。よろしく申し上げます。

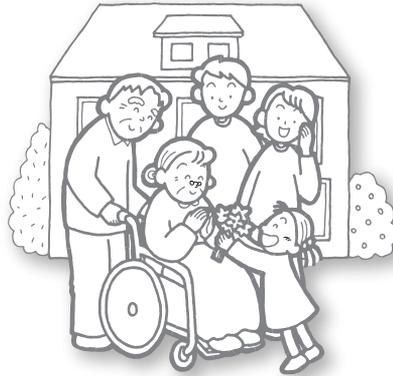
ステーションからのリレーだより

「やりがいを求めて」

和香会訪問看護ヘルパーステーション 所長 大森須美子

病棟勤務から訪問看護師を命じられて2年。訪問看護師 理学療法士 ヘルパーと3職種を一括していることで利用者様のニーズに合わせ支援できる点はとても便利なのですが人間関係は複雑になります。皆それぞれプロ意識を持って働いていますので、アドバイス程度の発言でも……。

指導能力を身につけるため研修に出かけていますが、訪問看護制度 診療報酬 介護報酬の改定と覚えきれません。また当ステーションのような小規模ほど赤字の割合が高いそうですが看護師の確保が困難で緊急時や日曜日の訪問が数少ない常勤者の負担となっています。以上マイナス面ばかり取り上げましたが、小規模の為全体が把握しやすく、利用者様の満足度が目に見えやすくなり、職員に即伝えることが出来ます。少しずつですがターミナルケアの依頼があり、その人、その家族に適した心のケアを話し合い、やりがいを同胞と感じています。



「道のりを知ること」

訪問看護ステーションさくらんぼ 管理者 横田美智子

先日、演劇サークルの会報の中に5月に亡くなられた利用者さんのお名前があるのを発見しました。「Kさんを偲んで」の文章は、Kさんと長年演劇サークルの活動をしてこられた方が書かれたもので、病に伏してからも友人たちとお芝居の話をする事をなにより楽しみにしていたことや、内野聖陽の大ファンだったこと、さらには戦争体験を次の世代に伝えてゆかねばとの強い思いを持っておられたことなどが書いてありました。添えられた写真はふっくらとして若々しく私たちの知るKさんとは別人のようでした。Kさんは3か月足らずの自宅療養ののち、ご主人と娘さんに見守られながら自宅で静かに息を引き取られた方ですが、日々は呼吸困難に苦しみ会話もまま

ならない状況もしばしばでした。それでも清拭や洗髪の際は、とぎれとぎれでも「大変ね」「気持ちいいわ」と看護師へのねぎらいの言葉を忘れない方でした。重症化と訪問期間の短期化が進み、その方の生き様や想いに触れることがますます難しくなっています。病に苦しめられたKさんの姿だけでなく、私たちの知らなかったKさんの姿を知ることができ、やっと何かがつながったという安堵の思いを抱きました。

「全国訪問看護事業協会総会・都道府県連絡協議会に参加して」

訪問看護ステーションまいんど 管理者 都築昌恵

平成22年6月16日、全社連研修センター（東京）において標記会議が開催されました。総会では平成21年度事業報告がなされ、訪問看護推進事業・研究や研修会・電話相談による情報提供・ステーションニュースの発行等の広報・パンフレットやQ&Aの出版・連携についての報告がありました。その後事業報告、決算報告、役員辞任及び選任等全ての議題について了承されました。

午後からの都道府県連絡協議会交流会では、全国41ヶ所から参加した代表者が、6ブロックに分かれ平成24年度診療報酬及び介護保険の同時改定の政策提言に向けての意見交換を行いました。その中で

数の意見は、訪問看護は医療保険に一元化して欲しいと言うものでした。又全体討議として①訪問看護師の確保②他職種・他ステーションとの連携③駐車規制の緩和④居宅療養管理指導の届出、算定状況についてなど、各都道府県の取り組みを具体例を挙げて活発に情報交換がされました。

工夫している他県の取り組みに勇気や元気をもらい、有意義な時間を過ごす事が出来ました。岡山県訪問看護ステーション連絡協議会の発展を微力ながら支えて行きたいと痛感いたしました。参加させていただきありがとうございました。

「訪問看護ステーションの管理・経営について」の研修に参加して

ゆめの里訪問看護ステーション 管理者 森重良子

去る平成22年2月13日、「訪問看護ステーションの管理・経営について」に参加させていただきました。昨年の管理者研修でご講義いただいた野崎加世子先生に再度お願いし実現した研修でした。私自身管理者になって久しいのですが、その日その日の業務をこなすことで精一杯の日々が過ぎていました。どうすれば経営・管理面で利益が望める訪問看護ができるのか？という思いはありましたが、実際どのように考えたり、行動すれば良いのかわかりませんでした。これまでも管理・経営についての研修は多くありましたが、野崎先生の講義内容は現実的な問題解決に沿ったものであり、大変充実した時間をもつことができました。訪問看護の経営は管理者ひとりではできないものではないということ、改めてこの研修で強く感じました。SWOT分析を活用しスタッフ全員でステーションの強み・弱みを分析し、課題をこなしていくことが利益につながり仕事が楽しく行なえるということ・・・研修後実際にやってみました。スタッフは「なぜ私達がこんなことしなければいけないの？」という疑問はもったようでしたが、全員で問題解決に取り組む姿勢は必要であるということがわかってもらえたように思います。お蔭様で新しいスタッフを迎えることができ、停滞していたステーションが少し動き始めました。有意義な研修ありがとうございました。



「在宅セミナー」に参加して

倉敷訪問看護サービスセンター 藤井美智代

平成22年7月10日、岡山県看護研修センターにて「高齢者の脱水と経口補水療法」についてと題し大塚製薬工場様より情報提供と、みつ訪問看護ステーション看護協会の江田純子所長より「在宅における脱水予防の実際」の講義を頂きました。脱水を起こす要因と予防、また、効果的に水分補給を行なう上での方法と補水液の利用など具体的に学ぶことができました。



続いて、茨城県立中央病院看護局長の角田直枝先生より「利用者、家族の意向を尊重

した看取りケア（エンゼルケアを含む）と看護記録のポイントを学ぶ」との特別講演を頂きました。病棟看護では、充分とは言えない療養者と家族が求めるケアを訪問看護では、思いに寄り添いながら行なわれている事。また、在宅における緩和ケアの評価としても在宅で看取った遺族の満足度が一般病棟や緩和ケア病棟より高かった報告は、日頃のケアの評価として、またこれからの大きな励みとなりました。エンゼルケアでは、メイク法としてマッサージを行う事で顔の造作が整えられる事も学び、目から鱗が落ちる思いでした。「緩和ケア」とは、ご利用者の苦痛のみならず家族の苦痛（苦悩）に対しても働きかける事が大切であり今後のケアに活かしていきたいと思ひます。

「訪問看護における看護倫理・個人情報保護」の研修に参加して

岡山しがい訪問看護ステーション 管理者 高橋幸代

去る7月31日(土)岡山県看護研修センターにおいて、「訪問看護における看護倫理・個人情報保護」をテーマに研修に参加しました。講師は、昨年に引き続き訪問看護認定看護師である小牧実千代先生です。



午前中は、「倫理とは何か」「看護倫理について」「地域看護と倫理」「プライバシーと個人情報保護」「倫理的ジレンマへの対処」について、具体的な事例の中で分かりやすく講義いただき、難しく考えがちな倫理が、それぞれの人が持ついろんな価値観の中で、実は私たちが普段悩み、考えている身近なものであることが実感できました。

午後からはグループワーク。1つの事例をもとに、問題解決用紙に沿って考えていきました。困難な事例があったときの対応方法について、その対象者にとっての利点・欠点を考えながら最良と思われるものを導き出していきます。訪問看護においてステーションで考えるときに、根拠をもって意識の統一を図ることができ活用していきたいと思ひました。

講義の中で、「ナイチンゲール誓詞」の確認と「看護者の倫理綱領」をもう一度内容をみることの提案がありました。権利があるということは義務も発生します。自分たちの身は自分たちで守るためにも必要な・・・と感じました。「看護師はライセンスを持っているので知識・技術を持っているのは当たり前前。訪問看護師はプラスαを持っていること。独りよがりではなく、チームで」の言葉に、身が引き締まる思いです。小牧先生は訪問看護通算16年されていて、「続けられているのは、楽しい、面白いから」と話され、その笑顔が印象的でした。

一緒に研修参加して下さった方、関係して下さった方、ありがとうございました。

アドバイザー派遣事業について

倉敷中央訪問看護ステーション 管理者 柴田由美子

岡山県看護協会では、18年度から岡山県の委託を受け「岡山県在宅ケア推進事業」に取り組んできました。20年度から、在宅ホスピスケアアドバイザー派遣事業に取り組んでいます。この事業は、在宅ホスピスケアを実施または実施しようとする訪問看護ステーションに対して、がん性疼痛看護・緩和ケアなどの認定看護師をアドバイザーとして派遣し、個別事例への助言、専門知識や技術についての支援を行うものです。今までに7箇所(10事例)の訪問看護ステーションに派遣をおこないました。相談内容は、本人・家族・医師・看護師との思いのずれがある場合どう関わっていけばよいのか・疼

痛をどのように医師に伝えれば効果的にコントロールできるのか・薬の量は増やせるのかなどいろいろありました。また、亡くなられた後の振り返りを認定看護師と一緒にすることでどのように関わればよかったのかなど学べたという意見もありました。「認定看護師に相談でき、いつでも相談できるという安心感を得た。専門的なアドバイスを受けることができて良かった」という良い意見をもらっています。研修会に参加もむずかしかったりしますので、是非アドバイザー派遣事業を受けていただきたいと思えます。申込みは、看護協会までよろしくお願いいたします。

マッチングプラザに参加して

オリブ訪問看護ステーション 管理者 真宮由起子

5月18日19日に介護サービス博覧会おかやま～マッチングプラザ2010～が開催され、広報委員等は訪問看護活動PRのため、「岡山県訪問看護ステーション連絡協議会」ブースに出展参加しました。この催しは、介護サービス事業者はもとより、健康・福祉事業など豊かなくらしのための、さまざまな分野のサービスを一同に紹介していく場となっています。100社のブースには各々工夫を凝らした展示やサンプル資料が並べられ、どこも熱気にあふれていました。訪看連絡協議会ブースでは、血圧測定、活力年齢測定、アロママッサージケアサービスを実施しました。「訪問看護PR活動」については認識が広まっている感じを受けました。ケアマネジャーや専門職の集客が多い一方、中には一般の方で医療的に重度療養中の方や、難病で退院したいけれど相談先がない・・・といった相談を受ける場面もありました。さまざまな悩みを抱える方を支える社会資源のひとつとして、訪問看護への期待を感じました。



最後までブース訪問者が途切れず、活況でした。

平成22年度後期研修

日程・テーマ	ねらい	講師	場所
9月25日 浮腫療法 ～上下肢を中心に～	リンパマッサージを学び、看護ケアにいかす	済生会病院 リハビリテーション科 PT 二宮 直子 済生会ライフケアセンター PT 渡辺 あわち	倉敷中央 病院研修 センター
10月23日 在宅でできる 言語療法	言語聴覚士からケアの方法を学び、訪問看護の実践に生かす	芳野病院 言語聴覚士 石田 彰浩	津山総合 福祉会館
11月13日 神経性難病患者 の看護 ～進行性核上性麻痺 ・ALS・小脳変性症～	疾患の理解を深め、事例を通して看護の実践を学ぶ	神経内科クリニックなんば 院長 難波 玲子 岡山大学大学院 保健学研究科 教授 谷垣 静子	岡山県 看護研修 センター

※ 研修会1か月前までには研修会案内を送付いたします。
 ※ 研修会を1月～3月の間に1回予定しています。内容等は、研修委員会にて検討中です。
 ※ 管理者会議を後期に開催いたします。内容等は、検討中です。



研修委員

編集後記

今年は梅雨明け早々から立秋を過ぎても猛暑が続きました。TVニュースでは熱中症で倒れた人のことが毎日のように報道されました。OS-1を持って走り回ったステーションも多いことでしょう。

季節が変わってほっと一息でしょうか?利用者様の体調管理をはじめ、自らの体調管理にもせいをだして、笑顔で頑張りましょう。



広報委員一同